大学連携News

令和3年9月号

発行：世田谷区交流推進担当部
☎03-5432-2952

世田谷区

世田谷区は区内および隣接に１７の大学・学部があります。各大学の専門性や特色を活かし、区内の様々な課題に区や地域と協働して取り組んでいます。
ここでは日本大学文理学部の紹介と地域と協力した取組みをご紹介します！

日本大学文理学部

哲学科/史学科/国文学科/中国語中国文化学科/英文学科/ドイツ文学科/社会学科/社会福祉学科/教育学科/体育学科/心理学科/地理学科/地球科学科/数学科/情報科学科/物理学科/生命科学科/化学科
〒156-8550　東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部HP　https://www.chs.nihon-u.ac.jp

◎世田谷区と文理学部の包括協定締結◎

平成３０年７月２日（月），１６時００分から世田谷区役所において，世田谷区と日本大学文理学部との連携協力に関する包括協定締結式が行われました。

世田谷区からは，保坂展人世田谷区長や、その他関係者、文理学部からは，加藤直人文理学部長（現・日本大学学長），青山清英就職担当（体育学科教授・地域連携推進委員会委員長），土屋弥生准教授（総合文化研究室・地域連携推進委員会副委員長），大和田恭成庶務課長（当時）が出席しました。

この包括連携協定に基づき，文理学部では学部内の地域連携推進委員会を中心に世田谷区とのさまざまな連携事業を進め，新たな取り組みを計画しています。

日本大学文理学部は世田谷区桜上水に位置し，人文系・社会系・理学系の多岐にわたる18の学科があり，約8000名の学生が学んでいます。また，大学院，グローバル教育研究センター，次世代社会研究センターなどの特色ある教育・研究組織も有しています。これらの教育・研究資源を基盤として，今後も充実した内容の連携事業を展開していく予定です。

◎今後の世田谷区との大学連携について◎

文理学部の大学連携はこれまでも，大学教員個人が世田谷区と連携するかたちでさまざまな事業がおこなわれてきました。今後はこうした個別の連携を含め，文理学部が組織として世田谷区と包括的に連携事業を展開していくことにより，継続的で充実した内容の連携を実現することを目指しています。

文理学部内には「地域連携推進委員会」という組織があり，世田谷区との大学連携の核となっています。現在，世田谷区教育委員会との連携について，渡部理枝教育長とご相談し，文理学部の教員による多くの連携事業コンテンツ案を具体的に提示させていただいています。文理学部の教育・研究資源を生かしつつ，世田谷区や学校教育現場のニーズに合った事業を実現していければと考えています。

また，福祉分野においてはこれまでおこなってきた若者支援事業「たからばこ」などを今後も継続するとともに，新たな福祉ニーズへの対応を考えて参ります。

～これまでに連携してきた事業～

「世田谷区立障害者就労支援センターすきっぷ」永年勤続表彰式

世田谷区にある「世田谷区立障害者就労支援センターすきっぷ」は，平成10年に世田谷区が開設し，社会福祉法人が委託を受け運営する事業所で，地域に住む障害を持つ方たちに対して就労支援をしています。「すきっぷ」では，障害を持つ方たちを就労に結びつける支援だけではなく，すきっぷでの支援終了後に仕事を続けている方たちに対してその頑張りを讃えるために1年に１回「永年勤続表彰式」を実施しています。平成21年から日本大学文理学部社会福祉学科が協力して「永年勤続表彰式」を実施するようになり，現在に至っています。

毎年多くのすきっぷの支援を受けて就労に至り現在も頑張っている元の利用者の方たちが参加しており，すきっぷ職員・現在すきっぷで就労に向けて頑張っている利用者の方々，学生，世田谷区の職員，地域の関係者など多くの人たちの前でこれまで頑張ってきたことを表彰されることで，これからの就労に向けての新たな活力になっています。

また日本大学文理学部社会福祉学科の学生たちは，ボランティアとしてすきっぷの職員の方々と一緒に永年勤続表彰式の企画・運営に関わり，また実際に表彰式の場で就労を頑張っている障害を持つ方たちや関係する多くの人たちと触れ合うことにより，地域共生社会に向けた取り組みについて肌で感じる貴重な場となっています。

「新・才能の芽を育てる体験学習」

世田谷区教育委員会 生涯学習・地域学校連携課の「新・才能の芽を育てる体験学習」令和3年度の体験学習の講師として，文理学部次長の谷聖一教授（情報科学科）がプログラミング学習の講座を，体育学科の水島宏一教授（ソウルオリンピック・銅メダリスト：体操）が体操講座を担当しています。

「新・才能の芽を育てる体験学習」は，第2次世田谷区教育ビジョンにもとづき，子どもたちが体験・体感する機会が拡充することを目指す取り組みです。５つのテーマ（探求，表現，体力・健康，国際理解，環境）の中から通常の授業にはない体験・体感ができる活動を通して，子どもの興味関心を広げ，将来の夢や希望をもち，たくましく生き抜く力を育てていくことを目的としています（世田谷区教育委員会・令和3年度リーフレットより）。

未来の世田谷区，未来の社会で活躍する子どもたちを育てる取り組みに，文理学部の教育的資源が活用されています。

「たからばこ」での活動

「たからばこ」は多世代交流の場として，岡さんのいえTOMO（東京都世田谷区上北沢３－５－７）で，世田谷区と大学生との協働プロジェクトとして平成27年7月22日に開設しました。

日本大学文理学部の大学生が運営主体となり，中高生世代が自由に交流し，時間を共有する場を提供しています。学校，家庭，そして第３の居場所として地域で安心して過ごせる居心地の良い場となっています。中高生が大学生に勉強を教えてもらったり，宿題をしながらおしゃべりしたり，ゲームもよくしています。また，地域の方，ご近所の小学生も来たりと，世代を超えたいろいろな人と出会いがあるあたたかな居場所です。

世田谷区の若者支援担当課の方と一緒にイベントを企画・運営することで，仕事の進め方を学んだり，時には就職相談をしたり，大学生も多くのことをここで学んでいます。

その他学生企画として，季節の遊びやバルーンアートをしたこともあります。今年も大学生が夏の企画を考えているところで，楽しみにしています。どうぞお近くの皆さんも気軽に立ち寄ってください。お待ちしています。

文理学部と世田谷区の未来（講演会・シンポジウム）

令和元年１２月３日（火）１６時３０分より，日本大学文理学部本館会議室にて保坂展人世田谷区長に「文理学部と世田谷区の未来」についてご講演いただきました。

その後，保坂区長，紅野謙介学部長，鴨澤小織准教授（社会福祉学科），金丸龍夫准教授（地球科学科）によるシンポジウムがおこなわれました。

講演会およびシンポジウムは，世田谷区が構想する大学との地域連携について，教職員の知識・理解を深め，地域連携強化に寄与することを目的とし，今後の包括連携の具体的な方向性について議論がおこなわれました。

「特別支援教室専門員研修」

世田谷区教育委員会 教育相談・支援課の「令和元年度特別支援教室専門員研修」の講師として，総合文化研究室の土屋弥生准教授（臨床教育学分野の研究）が「児童・生徒の自己肯定感を高める支援をおこなうために－発達に課題が見られる子どもたち－」のテーマで講演をおこないました。

特別支援教室専門員は，東京都の公立学校において，巡回指導教員や特別支援教育コーディネーター等と連携して特別支援教室の円滑な運営に資するために配置されています。世田谷区では，区立小中学校に勤務する特別支援教室専門員を対象に研修をおこなっており，令和元年度は特別支援教室を利用する児童・生徒の障害特性を理解し，特別支援教室の円滑な運営をおこなうための能力向上を図ることを目的に，特に発達に課題が見られる児童生徒の理解と具体的な支援のあり方，支援をおこなうための見立てなどについて実践的な研修をおこないました。大学における研究成果が世田谷区の教育実践の場で生かされる機会となっています。